

東白川村 美しい村づくり 委員会

第五回

- 場所：役場本館 3 階会議室
- 時期：平成 28 年 7 月 25 日（月）19：00～21：30
- 参加者：委員 5 名 ゲスト 5 名 行政 5 名

【ビュースポットの選定】

総務課企画係から「ビュースポットの選定」について、美しい村づくり委員の皆さんにもビュースポットの候補地を見て選定してもらおう！という提案を行いました。ビュースポットに関しては昨年、久須見地区にて 1 カ所設定し、整備を行いました。

現在 「おもしろポイントマップ」 「美しスポットマップ」 「ビュースポット」が村内に設定されていますが、あまり知られていないのが現状です。

〈皆さんから出た意見〉

①選定の課題

- ◇ビュースポットのコンセプトはあるのか？（ex：景観を守るため。観光スポットとして村外から人を呼び込むため。など）
- ◇ターゲットは誰なのか？
- ◇ストーリー作りが必要なのでは？
- ◇国道沿いを通るだけで終わってしまい、村の奥に呼び込むための策を考えなければいけない。
- ◇作っただけで終わりになってしまっただけではいけない。村に集まる仕掛け作りが必要。

②選定の提案

- ◇星が見えるスポット、蛍やオオサンショウウオがよく見られるスポット、パワ

ースポットがあったら面白い。

- ◇桜や茶畑を活かしたスポット
- ◇今流行っている「ポケモン GO」を活かして、東白川村に現れるレアなキャラクターがあったら村外から多くの人を訪れる可能性がある。
- ◇美しい景観は写真家の人達の撮影意欲を湧かせることができる。
- ◇景観だけでなく“体験”をプラスしてもいいのではないか。
- ◇ビュースポットを選定する前に東白川村のアイデンティティを確立させるために歴史を探るべきである。
- ◇住民にとっての当たり前が“村外の方の興味”となっている。

例：神道の村

つちのこ

東白川村と白川町の地形（月と太陽のような形にも見える）

道の駅の野菜の売り方（生産者や栽培方法別にシールが分けられている）

など。

▼まとめ

話し合いの結果、選定をすぐ行うことは難しく、選定をする前にビュースポット設置にあたっての目標から考え、その目標からコンセプトやターゲットなどを逆算して決めていくべきだと話がまとまりました。

【人材バンクについて】

前回の話し合いで美しい村づくり委員会の活動軸となった「人材バンク」について全体スキームを決める話し合いを行いました。

東白川小学校の堀部校長先生から預かった参考資料を教育委員会の今井信和さんから説明していただきました。（参考資料は別紙参照）

美濃加茂市で作成されたおばあちゃんのレシピ集や五加地区の名前を活かした合格茶、花作りコンテストなど、様々な提案をいただきました。

▼人材バンクを設置するために、まずは基本の7W2Hで考えました。

特に“Who 誰が”、“What 何を”、“How どのように”が重要になってくると考え、この三点を中心にまず話し合いました。

①【Who：誰が】

Who は、主に“教える人”と“知りたい人”が中心となる。

- 教える人…知りたい分野に関して詳しい人を探し、教える人として人材バンクに設定します。
もしくは“教えたい人”も積極的に登録できるような設定が必要。
- 知りたい人…知りたい分野に関して教えてもらう人を探せるようなシステム作りをしていきます。しかし、“まだ知らない知りたいこと”というのも存在している可能性は大いにあるため、教える人が幅広く登録されていることが重要となる。

②【What：何を】

What は、人材バンクを利用する“教えるコト・モノ”と“知りたいコト・モノ”と考えました。

〈出てきた案〉

- ・山菜・糰・自然、ネイチャーガイド
- ・布草履・ワラ仕事・こんにゃく・朴葉寿司・パーマカルチャー

③【How：どのように】

どのように人材バンクを設置するかが特に今回の委員会で論点となりました。そもそも人材バンクを作る「目的」から考え直しました。

東白川村の魅力や誇りを次世代に伝え残していくために、

「大人から子供へ伝える場が必要だ！」

という考えにまとまりました。また、人材バンクを設置するには、プラットフォームが必要だと意見が出ました。

※プラットフォーム：ものごとの基礎・基盤

プラットフォームを作ることで人と人との関わりや、人々の意識を構築していけることが可能であり、そのためには多様な学びが必要です。

▼「学び」の例

- ・アーバンパーマカルチャー
- ・ギフトエコロジー・森林文化アカデミー

▼まとめ

今回はこの学びの部分进行深入掘り下げ、「何を」「どのように」学んでいくのか、話し合いを行っていく予定です。

